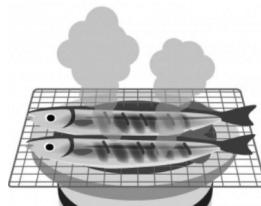


農業

令和3年9月号
会誌 No. 1681



目 次

卷頭言

今、有機農業が熱い！？ 大杉 立 3

論 壇

若手農業者よ、4H クラブに入ろう！ 首藤 元嘉 4
いや、入るべきだ

農業懇話会

エビデンス（根拠）に基づく農業・農村施策の立案に向けて…藤栄 剛 6

農事功績者座談会

地域と調和した都市近郊の地域交流型酪農経営 石田 栄男 22
..... 石田 豊子
現地指導者のコメント 斎藤 直美 30
意見交換 32

研究の最前線

光と色による害虫防除技術 城塚可奈子 39
—赤色光によるミナミキイロアザミウマ防除—

農業・農村の現場から

みやぎの新たな農業交流拠点 庄子 雅和 48
—東日本大震災を契機とした「田所食品株式会社」の挑戦—

世界の農業は今

米韓 FTA と韓国農業（畜産部門）への影響 柳 京熙 54

私の経営と志

固定概念からの脱却 大隣 直人 59

食を楽しむ

フルーツ農家と菓子職人のサステナブルな関係性 平岩 理緒 61

統計情報

2020年新規就農者調査結果 62

農政情報

大日本農会だより 64

編集部から 64

会誌「農業」に関するアンケート

表紙写真説明**スダチの収穫（徳島県佐那河内村）**

スダチは香酸カンキツ類で、徳島県の生産量は全国1位を誇り、国内生産の9割以上が岡山県で出荷されています。需要促進や消費拡大のため、県のマスコットキャラクターの「すだちくん」や「すだち大使」も県民になじみです。

県内随一の産地、佐那河内村では、その昔、ほとんどの山の畠は温州ミカンでしたが、1981年（昭和56年）2月に強風と寒波が来襲し、寒い日が2、3日続きました。気温がマイナス20℃まで下がり、特にミカンの被害は大きくほとんどの木が枯死しました。俗に、五六の寒波と呼ばれています。

その後官民合同で推進し、多くの農家がミカンからスダチの転作を行い、山々は「黄金の谷」から「銀の谷」と呼ばれるようになりました。

完全共同出荷・冷蔵貯蔵による周年出荷体制が整い、県の推奨作物にもなり、「ハウススダチ（3～8月）」「露地スダチ（8～10月）」「冷蔵スダチ（10～3月）」と1年中出荷が行われています。

JA徳島市果樹選果場では高品質出荷に努めており、高性能カメラセンサーなどを備え選果効率を上げており、選果・加工を合わせ年間1,000tの出荷が行われています。

洗練された香りとすっきりした酸味が特徴で、果汁はもちろん、果皮も薬味として幅広い料理をグレードアップさせてくれます。露地出荷の最盛期の夏は、そうめん、うどんの薬味として、また秋の味覚のサンマには欠かせず、冬は土瓶蒸しや鍋物に最適で、季節を問わず全国に親しまれています。

（徳島市農業協同組合総務部広報 岡島 みづき）